



3 万年前の航海 徹底再現プロジェクト 本年 6 月の台湾における実験航海について 記者説明会を行います

本プロジェクトについて、これまでの多数の報道に感謝申し上げます。

私たちは、本年より台湾の台東県へ舞台を移し、2019年に予定している本番の実験航海(台湾→与那国島)を目指して、新たな実験活動を始めます。来る6月から行う竹筏舟によるテスト航海について、下記のとおり記者説明会を行いますので、ぜひご参加ください。

※用語について

これまで、昨年与那国島で試作した舟を「草舟」、今回台湾で製作するものを「竹筏」と呼んできました。舟と筏の原義を考慮し、今後は私たちが製作しているものについて、それぞれ「草舟」「竹筏舟」と呼ぶことにしました。

【日時】平成 29 年 5 月 24 日 (水) 11:00~12:00

【会場】国立科学博物館 上野本館 日本館 2 階 講堂

【説明内容】

- 実験の目的 (なぜ竹筏舟をテストするのか)
- 実験の舞台 (台湾の台東県という場所について)
- 竹筏舟の製作 (山中での材料調達から組立まで/草舟との違い/苦労したこと・予想外だったこと/いくつかの実験成果)
- テスト航海のスケジュールと取材方法

【参加申込み】 最終ページの記載に従ってお申込みください

本説明会についてのお問合せ先：

国立科学博物館研究活動広報担当 福島 昇
〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
TEL : 029-853-8901 (代表)、029-853-8984 (直通) FAX : 029-853-8998
E-mail : outreach@kahaku.go.jp

プロジェクト内容についてのお問合せ先：

海部陽介 (プロジェクトチーム代表、国立科学博物館人類史研究グループ長)
TEL : 029-853-8901 (国立科学博物館筑波研究施設代表)
E-mail : kaifu@kahaku.go.jp

<実験の目的>

竹筏舟を試作し、それが長距離航海に対する十分な耐久性と安定性を備えているか、巨大海流である黒潮を横断するのに必要なスピードを出せるかなどを検証します。加えて台湾東岸の海と潮の流れを体感し、どうしたら黒潮を乗り越え、水平線の下に隠れて見えない与那国島を目指せるのか、対策を練ります。

<漕ぎ手>

日本人と台湾人および男女の混成チームとします。全員がシーカヤックのプロあるいはプロ級で、舟漕ぎの経験が豊富な方々です。

<竹筏舟のデザイン・これまでの準備>

今回は、かつて台湾東岸で竹筏を作ってトビウオ漁をする伝統をもっていた台湾原住民アミ族の知識を借り、航海をするための舟を試作します。伝統的な竹筏が平らなかたちをしているのに対し、私たちの舟はスピードが上がるように細長い舟型に設計しました。舟は現時点でほぼ出来上がっていますが、6月に海に浮かべてテストしながら、必要に応じてさらに改造を加えます。

本年3～4月に、台東県の山中で竹・籐を伐採し、それぞれ前処理を行った上で舟の組立てを行いました。台湾で唯一知られている3万年前にさかのぼる旧石器時代遺跡（長濱郷に所在する八仙洞遺跡）を、発掘主任の臧振華 清華大学教授（台湾中央研究院院士）の案内で視察し、当時の道具技術で、巨大な竹など今回使う材料の調達・加工が可能であることも確認しました。

<スケジュール> ※変更になる可能性があります

- 6月4日 キャンプ地（台東県太麻里の海岸）に集合・準備
- 6月5～14日 漕ぎトレーニング（太麻里周辺）
海峡横断テスト航海（終盤の2日間を予定していますが天候によります。
航路は現地の海の状況を把握してから決めます。）
現地記者会見（現地にて数回行います。日程は決まり次第お知らせします。）
- 6月15日 撤収

<活動の場所>

砂のビーチがある太麻里を拠点として、竹筏舟のテストを行います。少し沖へ行くと、黒潮の本流が北へ流れています。



画像提供

報道用に下の写真・図をご提供いたします。下記からダウンロードしてください。

<http://firestorage.jp/download/38b6520afa926cacb573d8f753238cda1afa9a0d>

ダウンロードパスワード iigd38m0

- ・ 使用目的は今回の報道に限らせていただきます。
- ・ クレジット表記 提供：国立科学博物館「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」などと記してください。短くする場合は「国立科学博物館」を削除して構いません。
- ・ トリミングして構いません。
- ・ 撮影は全て2017年で台湾の台東県内です。



舟を作るための竹の伐採



竹筏舟の組立て



人造湖に浮かんだ竹筏舟

下記についても報道・紹介いただければ幸いです。

◆ 情報をお寄せください — 台湾から沖縄県の島が見えるか？

2019年の最終目標（台湾→与那国島航海）のプランを練るためには、台湾のどこから沖縄県の島々が見えるのかを知っていなければなりません。しかし現時点で、そのような情報は限られています。できるだけ多くの方々にこのことを知ってもらい、有効な情報が寄せられますよう、プロジェクト公式ホームページに依頼を掲載しました。

<https://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/gathering2017.html>

◆ プロジェクトについて知るには

公式ホームページ（国立科学博物館のトップページから入れます）

<http://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/>

関連テレビ番組（ネットで無料視聴できます）

「日本人はどこから来たのか？ “実験航海” 3万年前を徹底再現」

ナビゲーター：宮崎美子（テレビ東京 2016.12.28放送 58分）

http://txbiz.tv-tokyo.co.jp/feature/vod/post_123919/

◆ 寄付を募っています

<https://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/donation/index.php>

問合せ先：

「3万年前の航海徹底再現プロジェクト」事務局

TEL：029-853-8103 E-mail：gaibushikin@kahaku.go.jp

＜記者説明会への参加申込＞

記者説明会への参加は、説明会前日(平成29年5月23日(火))17時までに、E-mail、FAX、電話のどれかで「本説明会についてのお問合せ先」まで、以下にある参加連絡事項を、お知らせください。

FAX の場合は、本ページの「参加連絡事項」に続けて記入し、FAX 番号 029-853-8998 へ、本ページのみを、お送りください。

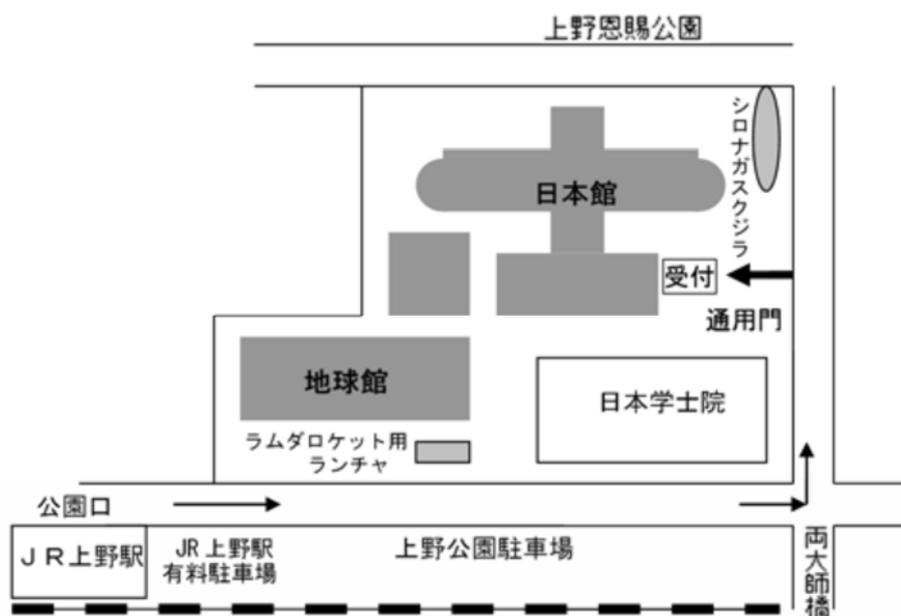
記者説明会の概要

日時:平成 29 年 5 月 24 日(水) 11 時 00 分～12 時 00 分

場所:国立科学博物館 上野本館 日本館 2 階 講堂

受付:国立科学博物館 上野本館 事務棟入口 ※通用門からお入りください。

以下にJR上野駅 公園口からの略図を記します。



参加連絡事項:

貴社名

所属部署名

ご芳名

連絡先住所

連絡先電話・FAX・E-mail